



井伊氏1000年の歴史の一片を紐解く

井伊氏のはじまりは、平安中期の寛弘7年(1010)、遠江(静岡県西部)井伊谷の井戸から誕生したとされる井伊共保(ともやす)を初代としている。

共保は、志津城(西区村櫛町)の城主 藤原共資の養子となった後、井伊谷に移り、姓を「井伊」とし、旗印を井桁に、家紋を出生時、井戸のかたわらに咲いていたとされる橘の花とした。井伊谷城を本拠としてからは、この地方の国人領主として栄え、南北朝時代には後醍醐天皇の皇子 宗良親王(むねながしんのう)を迎え、足利幕府に対抗する南朝勢力として奮戦する。戦国時代になると、井伊氏は今川氏の支配下に置かれる。井伊氏に受難の波が押し寄せることになる。



戦国時代のヒロイン 井伊直虎ヒストリー

女性でありながら男の名を名乗った、女城主・井伊直虎。
なぜ、井伊家の当主を務めなければならなかったのか？
その波瀾に満ちた生涯に迫る。



ともやすころ
共保公出生の井戸
井伊氏初代の共保が生まれたとの伝説が伝わる井戸は、龍潭寺山門の南、田圃に囲まれたどかな場所にある。白壁に囲まれた大きな石組みの井戸で、傍らには「井伊氏相備中守藤原共保出生之井」の碑が建っている。

浜松市北区引佐町井伊谷1989(龍潭寺門前)
交/ JR浜松駅から遠鉄バス 奥山行で約45分
龍潭寺より徒歩約5分

戦国時代・
遠江周辺の勢力図
今川氏のもと井伊領を治めたが、力のある大名に囲まれており、生き延びていくのは大変だった。

